

Y8-11

電子カルテ導入作業の現場から - 兼務でのチャレンジ -

深谷赤十字病院 検査部¹⁾
深谷赤十字病院 企画情報課²⁾
深谷赤十字病院 外科³⁾
片山 一重¹⁾、三井 健一²⁾、伊藤 博³⁾

【はじめに】当院はオーダリングシステムを稼働させ、現在7年目を迎えた。平成21年12月より本格的に電子カルテ導入検討を開始した。今回、本来であれば企画情報課が中心となり導入検討作業を行なうが、検査部所属の職員が検査業務を遂行しながら電子カルテ導入の中心的な立場となり、企画情報課と協力し導入検討作業を行なう事になった。コメディカルと事務職の兼務となった状況でチャレンジしている事や経験した事について現在導入作業中ではあるが、システム更新を予定または実行中の他病院に対し資するものがあると考えたので報告する。

【ワーキンググループ】電子カルテ導入を検討する為の作業部会として、関係部門から召集し平成21年12月より活動している。

【検討事項】

- ・病院全体のシステム構成図を作成し、稼働時期、導入形態、保守契約等の確認
- ・新システム稼働迄の必要最低限の現システム延命計画
- ・現システムと新システムの各種費用の比較
- ・新システムの方針・導入目的と稼働予定日の設定
- ・全職員対象の電子カルテ勉強会開催
- ・ワーキングメンバーによる近隣同規模病院見学
- ・新システムの導入計画概要を作成しベンダからの概算見積と提案
- ・関係部門に要望調査を実施し要求仕様書にまとめる

【まとめ】兼務によって医療職と事務職の両方の立場に触れる事ができている。これは導入検討を行なう上では大切なものと思える。また、コスト的な内容をワーキンググループの検討事項として取り上げた。これにより関係部門への電子カルテ導入をする意識付け、これが病院にとって大事業である事を周知する事ができ、良い状況下で導入検討を進める事が出来ていると思える。今後の経過や導入結果については、次回以降に報告する予定である。

Y8-12

院内ネットワークを利用した、自作データベースによる業務改善の試み

旭川赤十字病院 医療技術部 放射線科
阿部 直之、瀬川 千晴、市川 仁、
河村 隆、増田 安彦

【目的】現在多くの施設に、コンピューターネットワークが張り巡らされている。しかし、セキュリティの問題などにより、これらが有効に活用されていないのが現状である。そこで、当院において新設されたネットワークを、放射線部門内における業務改善に活用できるかを検討した。

【方法】2006年8月に新設された、富士通社製 放射線システムHOPE /DrABLE-EX (以下RIS) のネットワークを利用し、データベースサーバー内にファイルスペースを設けた。ここにHTML形式でサイトを立ち上げ、部門内における情報の共有化を図った。これに伴い、出張管理用データベースを自作し、放射線部門内の出張にかかわる書類のデジタル化を行った。

【データベースの仕様】データベースはMicrosoft Accessを使用し、RISクライアントからアクセスできるものとし、部門内の管理者が出張の登録、変更を行う。登録された出張を部門内の職員が申請可能とし、院内における書式の出張申請書、復命書及び承認申請書の作成が出来るものとした。また、どの出張に、誰が申請しているかの確認や、任意期間内での出張や学会発表の演題名の抽出及びexcel形式でのエクスポートなどを可能とした。

【結果および考察】2007年7月の運用開始より596件(申請取り消しも含む)の出張申請があり、予期せぬオペレーションによる一部データの欠落を経験したが、修正により現在順調に稼働している。今回作成されたデータベースは、院内ネットワーク内で発生したファイルであり、ウィルスに犯される可能性は考えられない。このような安全なファイルを院内で共有することは、業務の改善に有効と考えられた。また、ネットワークは院内の有効な資産にあたるため、更なる利用を推進すべきと考えられた。